

山口大学共通教育における コースカリキュラム実施の現状と課題

何 暁 毅
木 下 真

要旨

山口大学共通教育にコースカリキュラムを導入されて四年を経た。本稿はコースカリキュラムの導入経緯や、その概念と特徴及び仕組みを説明する。そして授業編成の自由度が高いことや、様々な教育のニーズに応えられるなどの利点はある一方、仕組みが理解しにくいことや履修の偏りなど多くの課題も現れていることも指摘する。これらの課題や問題点を山口大学共通教育における実施状況を踏まえて論じる。

キーワード

共通教育，コース，カリキュラム，教育改革，授業編成，履修要件

1．共通教育にコースカリキュラムが導入された経緯

コースカリキュラムという概念は、本学経済学部の藤井大司郎教授によって考案された。経済学部では平成6年度から専門教育にコースカリキュラムが導入された。

本学の共通教育にコースカリキュラムが導入されるにはもう少し時間を必要とした。教養部改組後、カリキュラムを見直すという課題があったものの、議論はなかなか進まなかった。平成12年によく共通教育カリキュラム改革WGが立ち上げられ、共通教育のカリキュラム改革が本格的に議論され始めたのである。藤井教授は当時のWGのメンバーであったので、経済学部の実施経験を踏まえて、共通教育への導入を提案した。当

時の共通教育センターの丸本卓哉センター長の強力なリーダーシップのもと、一年以上の議論を経て、ようやく学内の理解と合意が得られ、平成14年4月から実施し始めた。

2．コースカリキュラムの仕組み

1) コースカリキュラムの概念

コースカリキュラムとは「予め設置された『コース』と呼ぶ授業科目グループ群の中から、一つ以上の定められた数のコースを「修了」することを求める教育カリキュラム」である。もっと明確に言うと、これは一つのカリキュラムシステム、つまり器であり、具体的な授業内容やコースの設定及び履修要件の指定と諸条件が揃って初めて教育的な意味を持つ。要するに、コースカリキュラムはカリ

* 本稿は2006年1月27日長崎大学で行われた、「第3回長崎大学大学教育機能開発センターシンポジウム－特色ある初年次教育の実践と改善－」においての何暁毅の講演を加筆・修正し、再構成したものである。

キュラム・フレームワーク(カリキュラムの構造表現と実行に必要な様々な仕組みを提供する器)である。コンテンツ(各学部や学科における教育目標, 授業などカリキュラムの内容)そのものを示しているわけではない。例えるならば, コースカリキュラムは料理を

盛る器や膳の形や配置であって, 器に盛る料理そのものではない。

後述するように, コースカリキュラムとはその修了条件を採用可能なカリキュラムであれば非常に多様かつ柔軟なコンテンツを運用することができるカリキュラム・フレーム

① 科目編成表

科目編成表						
系	分	授	設	科	単	積
列	野	業	置	目	位	み
		科		類	数	上
		目		型		げ
		置				履
						修
						可
K1	B1	C1	共通	基礎	2	
		C2	開放	基礎	2	
		C3	共通	総説	2	
		C4	開放	総説	2	
		C5	共通	総説	2	
		C6	共通	総説	2	
		C7	共通	展開1	4	12
		C8	共通	展開2	2	
	B2	C9	共通	基礎	2	
		C10	開放	基礎	2	
		C11	共通	総説	2	
		C12	開放	総説	2	
		C13	共通	総説	2	
		C14	共通	総説	2	
		C15	共通	展開2	2	10
	B3	C16	共通	基礎	2	
		C17	開放	総説	2	
		C18	共通	総説	2	10
		C19	共通	総説	2	

② コースマトリクス表

コースマトリクス表					
	A	B	C		備
...	コ	コ	コ	...	考
	丨	丨	丨		
	ス	ス	ス		
			①		
	②				
	①				
	②		②		
			①		
	②				
			①		
	①		②		
	①				

③ 学生別履修要件表

学	生	区	分	必修了	単	...	A	B	C	...	卒業	
							位	コ	コ			コ
履	修	要	件	数	位	設	...	丨	丨	丨	単	
							定	ス	ス	ス		位
A	学	部	a	学科	1	件	...	4	2	-	52	
								4	6	6		
								①	2	-		2
								②	2	-		2
								コース修了要件単位数	16	10		12
			ブロック修了要件単位数	16	8							
			b	学科	2	件	...	52				
									4	2	-	
									6	6	6	
									①	2	-	2
②	-	-							2			
コース修了要件単位数	16	10	16									
ブロック修了要件単位数	14	16										

図1 コースカリキュラム基本3表イメージ図

ワークだと言える。

2) コースカリキュラムの基本構造

コースカリキュラムは①科目編成表, ②コースマトリックス表, ③学生別履修要件表という基本3表から成る(図1)。

(1) 科目編成表の構成及び科目類型について

「科目編成表」とは提供可能なすべての授業科目を収める表である(図2)。

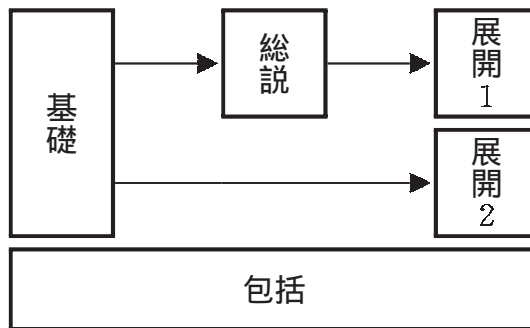
現行共通教育コースカリキュラムの科目編成には「系列」、「分野」、「授業科目」、「設置」、

「科目類型」、「単位数」、「積み上げ履修」という7項目がある。

「系列」と「分野」は授業科目を学生に分かりやすいようにグループ分けしたものであり、「授業科目」は共通教育に実際に開講するすべての授業科目である。「設置」は、その授業が共通教育として開講しているか、放送大学や県立大学との単位互換授業として認定する科目であるか、或いは「学部開放授業」であるかを区別するものである。もっとも現在、学部開放授業はほとんどない。

科目編成表						
系列	分野	授業科目	設置	科目類型	単位数	積み上げ履修
主 題	思想と文化	思想と文化	共通	包括	2	4
	芸術と表現	芸術と表現	共通	包括	2	4
	社会と組織	社会と組織	共通	包括	2	4
	環境と人間	環境と人間	共通	包括	2	4
	自然と科学	自然と科学	共通	包括	2	4

図2 現行共通教育コースカリキュラム「科目編成表」の一部



図中矢印は履修順序を示す

図3 科目類型履修順番イメージ図

「科目類型」という項目は科目編成表の中では非常に重要な役割を果たしている。また、それは「コースカリキュラム」の一つの重要な特徴でもあるが、詳しいことは後に述べる。ここでは簡単に「各分野の科目間の履修順序を示す項目」という説明にととめておく。現行共通教育コースカリキュラムの「科目類型」は『基礎』、『総説』、『展開1』、『展開2』、『包括』の5種類がある。履修の順番は図3に示したとおりである。

(2) コースマトリックス表の構成

「コースマトリックス表」とは授業科目とコースを丸付けで結ぶ表である(図4)。

①「コース」というのは教育上意味があり、学習に方向性を与える授業科目の集まりをいう。コースマトリックス表の中では、それぞれの列がコースを示す。そのコースに属する授業科目に丸印を付ける。

②「ゾーン」というのは一つのコース内の授業科目を丸印別にグループ化した部分である。ゾーンはコースマトリックス表だけでなく、単位数の面から学生別履修要件表とも密接な関係がある。

③コースと授業科目の関係について、コースマトリックス表へのゾーン指定(丸付け)によって、各授業科目はコース中に編成される。

初 期 教 育	コ ー ス マ ト リ ッ ク ス 型	学部向けコース						語 学 コ ー ス										編 入 学 ・ 単 位 一 括 認 定			
		日 本 事 情 (留 学 生 用)	主 題 教 養	人 文 教 養	社 会 教 養	自 然 教 養	応 用 教 養	総 合 教 養	英 語 標 準 A	ド イ ッ チ 語 基 本	フ ラ ン ス 語 基 本	中 国 語 基 本	ハ ン ゲ ル 語 基 本	日 本 語 (留 学 生 用)	ド イ ッ チ 語 発 展	フ ラ ン ス 語 発 展	中 国 語 発 展		ハ ン ゲ ル 語 発 展	ロ シ ア 語	ス ペ イ ン 語

図4 現行共通教育コースカリキュラム「コースマトリックス」の一部(修正有り)

(3) 学生別履修要件表

「学生別履修要件表」とは学生の所属別の履修要件を規定する表である(図5)。

①「ブロック」とは、一つ以上のコースを束ねたものである。コースは必ず一つのブロックのみに属する。2つ以上のコースを束ねたブロックは必修となる。

②「修了要件」については、「コース修了要件」、「ブロック修了要件」、「卒業要件単位数要件」の3種類があり、コースカリキュラムの修了要件とは、これら3種類をすべてを満たすことである。

③網掛け部分は必修コースや必修ブロックである。

学生区分	必修 了 コ ー ス 数	単 位 認 定	学部向けコース										語 学 コ ー ス								卒業 要件 総 単 位 数					
			初 期 教 育	日 本 事 績 (留 学 生 用)	主 題 教 養	人 文 教 養	社 会 教 養	自 然 教 養	応 用 教 養	総 合 教 養	英 語 標 準 A	ド イ ッ シ 語 基 本	フ ラ ン ス 語 基 本	中 国 語 基 本	ハ ン ゲ ル 語 基 本	日 本 語 (留 学 生 用)	ド イ ッ シ 語 発 展	フ ラ ン ス 語 発 展	中 国 語 発 展	ハ ン ゲ ル 語 発 展		ロ シ ア 語	ス ペ イ ン 語			
A 部 学	B 学 科	ゾーン要件 単 位 数	4								4	8	8	8	8		8	8	8	8						46
		コース修了要件単位数	4-	4-	2-	2-	2-	2-	2-	2-	6-	8-	8-	8-	8-		10-	10-	10-	10-	4-	4-				
		ブロック修了要件単位数	4-	4-	8-		6-	2-	6-	1	コース8単位					10-	10-	10-	10-	4-	4-					
		ゾーン要件 単 位 数	4							4	8	8	8	8		8	8	8	8							
C 部 学	C 学 科 (外 国 人 留 学 生)	ゾーン要件 単 位 数	4	0-	4-	2-	2-	2-	2-	2-	2-				8-	2-	2-	2-	2-	4-	4-				46	
		コース修了要件単位数	4	0-	4-	2-	2-	2-	2-	2-	6-	8-	8-	8-	8-	8-	10-	10-	10-	10-	4-	4-				
		ブロック修了要件単位数	4	0-	4-	8-		6-	2-	6-	1	コース8単位 (母語を除く。)					10-	10-	10-	10-	4-	4-				
		ゾーン要件 単 位 数	4							4	8	8	8	8		8	8	8	8							

図5 現行共通教育コースカリキュラム「学生別履修要件表」の一部（修正有り）

3. コースカリキュラムの利点

1) コースの特徴と利点

コースとは、前述したように授業科目からなるグループであり、カリキュラムを履修してゆく過程で学生につかみ取ってほしいテーマを表す。原則教育上意味のあるコースなら何でも良い。

近年、入試制度の多様化によってさまざまな学生が大学に入学している。その多様な入学者に適した教育を行うために、さまざまな履修モデルを提供する必要がある。その手段としてコースを活用すれば、多様な履修ニーズに応えることができる。

また、最近学部や教養教育にGP(グラディエーションポリシー)が作成される。しかし授業を分野別に分けると、GPとの関連性は付けにくい。そこでコースという概念を利用すると非常に分かりやすいカリキュラムを組むことができる。

2) 科目類型の特徴と利点

コースカリキュラムと一般の教育カリキュラムのもう一つ大きな違いは、科目編成表に「科目類型」という項目を設定していることである。「科目類型」とは、前述したように授業を分類し、学生の学力と学習進捗状況に応じて履修する授業の順番を指定することである。

例えば、ある学科では物理学の基本的な知識が必要となるにもかかわらず大学入試で受験科目として選択しなかったため、十分な知識を持たない学生も入学してくることがある。従来のカリキュラムでは、そのような学生がいるにも関わらず一律の内容で授業を行ってきたが、学年が進行するに従ってそのような学生がドロップアウトすることもあった。コースカリキュラムでは物理学の基礎力が十分でない学生には、高校レベルの知識を補強するための物理学への入門科目を受講させた上で大学レベルの物理学の授業を履修させる。つまり順番を指定することができ、学

力のばらつきを効果的に修正することが可能である。

また、科目類型は、ある学問分野において、この授業を履修しなければ次の授業の履修が困難であるとき、その二つの授業の履修に「科目類型」で順番を指定すれば、無理のない履修をさせるときなどにも利用することができる。

3) 授業編成の自由度が高い

コースカリキュラム以前のフォーミュラ(方式)では、カリキュラムを編成するとき授業数が大きな問題になっていた。この理由は、一つの授業科目は一つの科目グループ(コースカリキュラムではコースに該当する)にしか属することが許されないという制約があった。例えば、カリキュラムの変更によって科目グループが増加すると授業科目の数をも増やす必要が生じ、これは教員に割り当てる授業の増加に繋がり、カリキュラムの改革の足かせとなっていた(図6)。

	テーマ1	テーマ2	テーマ3
授業科目1			
授業科目2			
授業科目3			
授業科目4			
授業科目5			
授業科目6			
授業科目7			
授業科目8			
授業科目9			
授業科目10			

図6 従来型カリキュラムイメージ図

コースカリキュラムのカリキュラム・フレームワークではこの制約を廃して、一つの授業科目は複数のコースに属することが可能である。以下にコースカリキュラムを適用した図を示す(図7)。

	コース1	コース2	コース3
授業科目1			
授業科目2			
授業科目3			
授業科目4			
授業科目5			
授業科目6			
授業科目7			
授業科目8			
授業科目9			
授業科目10			

図7 コースカリキュラムイメージ図

そのため、コースカリキュラムではコース編成数の変更や授業の統廃合を伴うカリキュラム改革であっても以前より容易に行うことができる。例えばコースの数を増やしたとしても、授業科目の数を増やすことを強いられることはない。

このように、従来のフォーミュラと比較して、カリキュラム改革が授業数に与える影響を小さく抑えられるので、カリキュラム改革の活性化の道筋をつけることができる。

4. 山口大学の共通教育における実施状況

1) 共通教育が提供している授業の状況

共通教育が現在提供している授業は、認定を含め、全部で9系列、54分野、161授業科目である。2006年度実際の開講授業コマ数は前期約596、後期は約377、前後期併せて973コマである。

開講授業の中では、教養教育に関する授業が大部分を占めているが、理系入門や、医学英語など特定の学部向けの授業も一部含まれている。

逆に、「フレッシュマンセミナー(新入生合宿)」や「基礎セミナー」など、一部の授業は共通教育にカウントされながら、基本的に各学部が責任母体として行われている授業もある。

目を引くのは英語の科目と初修外国語科目の多さである。英語は全学必修化以降、必然的に科目および開講コマ数が増えた。初修外国語はほとんどの学部で選択必修に指定されているにもかかわらず、受講者は非常に多い。特に中国語やハングルの受講者が多く、理系の多くの学生も様々な理由で「中国語初級」

のような文系向けの授業を受講している。

2) 各学部のコース設定

現行共通教育コースカリキュラムでは基本的に各学部がコースを設定している。そのコース設定状況は次の表に示すとおりになっている（工学部夜間を除く）。

表1 共通教育のコースカリキュラムにおける各学部のコース設定一覧（工学部夜間除く）

	人文学部	教育学部	経済学部	理 学 部	工 学 部 (昼)	農 学 部	医 学 部 (医学)	医 学 部 (保健)
初期教育	1	1	1	1	1	1	1	1
テーマ型コース	1	3	1	16	9	9	1	7
学部向けコース	6	9	5	7	8	14	5	4
語学コース	12	14	6	1	1	7	6	5
編入学・単位一括認定	1		1	1	1	1	1	1
総合科目			1	1		1		
自然科学コース		2						
医学総合科目							1	1
教職免許			1		1			
留学生特例								1
合 計	21	29	16	27	21	33	15	20

3) 各学部のコース設定の特徴

表1に示すとおり、各学部は共通教育提供授業を元に様々なねらいでコースを設定している。ここで各学部のコースの特徴を簡単に分析してみたい。

人文学部は学部向けと語学コースが充実している。逆にテーマ型コースは一つしかない。語学コースはほとんど初修外国語を対象にしているため、明らかに学部学科の基礎学力養成を目指している。

教育学部のコース設定も人文学部と同じ傾向が見られる。語学コース、それも初修外国語のコースを人文以上に設定している。これは教育学部の学科構成を反映したもので、文系の学科対象には文系の初修外国語初級などのコースを、理系の学科対象には理系向けの初修外国語入門コースを割り当てたため、非常に多くの語学コースが設定されたものと思われる。

経済学部のコース設定は一番少ない。学生

数は農学部の倍以上なのに、コース数は農学部の半分程度である。しかも学部向けと語学に集中している。テーマ型コースは人文学部と同様、留学生用の「日本事情」しかないのが特徴である。

理学部は逆にテーマ型コースを充実している。学部向けコースはほとんど理系基礎を元にしてはいるが、ほかの教養科目は全部テーマ型に帰属させた。ほかの学部は外国語コースとして多くのコースを設定している初修外国語入門授業も、テーマ型コースに入れて、教養科目として捉えている。

工学部のコース設定は理学部とほとんど同じ発想に基づく。専門の基礎部分は学部向けコースに入れ、残る教養科目は全部テーマ型コースにまとめた。

農学部のコース設定が一番細かい。これはそれぞれの学科向けに人文系、社会系、理系、実験系など細かくコース分けしたためである。

医学部医学科のコース設定は経済学部のコース設定思想と非常に似ている。教養科目や専門基礎部分は全部学部向けコースに分類し、語学系は語学コースにまとめた。逆に、理学部などほかの学部の多くが設定しているテーマ型コースは一つしかなく、それも経済学部と同じ留学生用「日本事情」である。

医学部保健学科は医学科と同じ程度の学部向けと語学コースを設定している一方、テーマ型コースを多く設定している。この部分はいわゆる教養科目コースである。

5. コースカリキュラムの課題

1) 学生側からは個別コースのテーマがみえにくい

コースカリキュラムでは、それぞれのコースは一つ以上の授業科目から構成されている。また、授業科目は、一つ以上の複数のコースに属することになる。この特徴は、時間割を編成する教員側にとっては少ない授業数で修得してほしいテーマの数だけコースを設けることを容易にしている。また、科目類型やゾーン指定・ブロック指定を用いることで、コース中での履修順序や中心となるテーマ、コース間の関連などを表現することが可能である。

しかし、教育サービスを受ける側の学生に、カリキュラムを編成した教員が望むコースのテーマを実感してもらうことは難しい。それは、前述のように、一つの授業が複数のコースに属することを明示するのが、実際には難しい現状もあることと無関係ではないと思う。コース名として与えられたテーマは、学生にとってそれを意識または実感して履修してもらえようことをコースカリキュラムでは期待している。これによって、漫然と単位だけをそろえてゆくために授業を受けるのではなく、自分なりに学びに何かの方向性や手ごたえを感じて積極的に学ぶ意識を持ってもらお

うと期待している。しかし、現状では学生にとってはコース名は履修手続きの際に履修間違いが生じないように意識はするであろうが、手続き後完了後にはすっかり記憶から消えてしまう。

2) 複雑で理解しにくい

当初より、カリキュラムを編成する教員や運営にかかわる教務事務の方々にコースカリキュラムのフレームワークが「複雑で分かりにくい」という意見を多数いただいた。フレームワークを理解して慣れるまでにかかなりの時間を要する。

複雑で分かりにくいのは、カリキュラムを運用する側だけではない。学生、特に新入生にとっても分かりにくいようである。新入生に理解してもらうため、履修ガイダンスが大変重要であるが、甚大な労力を要するのが現状である。

3) 選択自由度の高さによる履修の偏り

コースカリキュラムでは、設定によっては学生に科目選択の自由度を高くできる。これはコースカリキュラムの一つの大きな利点でもあると同時に、大きな欠点でもある。少ない授業で自由に履修選択ができることは便利だが、受講者数に偏りが生じかねない。特に授業が始まるまで受講者数の予想は難しい。

現在共通教育においては、授業を実際に担当している各分科会が前年度の実績をもとにクラス規模や開講コマ数を調整している。

4) 学部授業との連携不足

現在の共通教育では授業設置及び担当は分科会に任せ、コース設定及び丸付けは学部にて任せている。その連携は必ずしもうまくいっているとは言えない。例えば初修外国語の初級授業は文系学部を念頭に設置したが、工学部や農学部など一部の理系学部も丸付けた。このように一部授業設計と実際の受講状況に

乖離現象が生じている。

もう一点、上述したように、コースの設定は学部任せであったが、実際は各学部の当時の教務委員らが設定していたと思われる。人が設定している以上、コースカリキュラムに対する理解度などが大きく影響し、前述したようなばらつきがあったと思う。

そして共通教育のコースと学部専門教育との関係については、卒業要件のため以外、修了の意味がはっきりしないなど、共通教育と専門教育がうまく連携しているようには見えない。

6. 結び

コースカリキュラムはコースの設定など自由度が高いのが売りであるが、慣れるまで難解である。多くの方々にとって、「頭を悩ませるやっかいなもの」である。

我々は今、「とりあえずコースカリキュラムに移行してみよう」という最初の一步のステップから、「コースカリキュラムをもっとうまく利用して教育的な効果をあげよう」という次のステップに踏み出そうとしている。特に今、共通教育カリキュラム検討WGで共通教育のカリキュラム改革を検討している

最中で、カリキュラムと共通教育(教養教育)GPとの関連など、多くの課題についてコースカリキュラムの活用が期待されている。この点は他の論文に詳しく論じたいが、コースカリキュラムの特徴を理解し、活用すれば多くのカリキュラム改革の難題を解決できると我々は信じている。

ここ数年は、砂漠に苗木を植える日々が続いたように思う。苗木はやっと大地に根を下ろし、新しい芽をふきはじめてたところだ。これから先、その木が実をつけるように様々な手入れが必要になるだろうが、山口大学に入学する学生をコースカリキュラムで育てた豊かな学びの森に招待できることを願っている。

(大学教育センター 助教授)

(大学教育センター 講師)

参考資料

- 1) 藤井大司郎「共通教育にコースカリキュラムを」
「大学教育センターだより」2000年AUTUMN号
- 2) 木下真「コースカリキュラムマニュアル」
2001年(未公開)
- 3) 山口大学「共通教育履修の手引き」2005年